

「中山間地で、がんばる経営発展プラン」

伯耆町 内藤賢一郎

1 はじめに

これまで1人で水稻及び作業受託を主体に経営を行ってきました。水稻栽培に取り組んで29年、その間農業公社等にも勤め、地域的水稻栽培を支えてきました。

平成26年には、日野川源流米コンテストで88点を取り、ベスト4の優秀賞に入賞しました。引き続きコンテストでの上位入賞を目指し、地域の食味向上のトップランナーになっていこうと考えています。

最近、我が家の周辺地区では、「高齢化で米を栽培できなくなり農地を貸したい。」という声が増えてきています。また米価も下がり、生産意欲も下がってきています。そのような理由から、周囲で畑の荒廃農地が発生しており、鳥獣害の増加、用水路の能力低下などが起き、自分の農業経営に支障がでるばかりでなく、地区の農村環境が更に悪化し、今後まともな農業経営ができなくなる恐れがあります。

今後は、荒廃農地を元に戻し、そばを作付したいと考えています。農地の賃貸借の要請増加の要望に応えるため、水稻の作付けも増やしていきます。

それに伴う労力不足を解消するため、大型機械を導入して作業の効率化を図りたいと考えています。

また6月～8月は水稻、そば栽培の農閑期にあたり労力に余裕があるため、試作している夏どりブロッコリー栽培に本格的に取り組む（荒廃地に作付け）、夏季の収入を確保し所得向上を目指します。

栽培にあたっては、町内の堆肥を有効利用してブロッコリー、そばの品質並びに収穫量向上に努めたいと思います。

地域のことも考えながら自分の経営を見直し、本プランにまとめました。これから本プランの実践に向けて頑張っていきたいと思います。

2 現在の経営について

(1) 経営品目

水稻と作業受託、ブロッコリー、そばの経営です。

水稻は、依頼主の高齢化もあり作付けを依頼される農地が増えてきました。販売先はJAが主ですが、直売もあります。中山間地のため草刈り作業にも苦勞しています。

ブロッコリーは、標高を生かして、初夏～夏の高温期にかけて出荷する作型に取り組んでいます。

通常、高温期は病気の多発や品質が不良になるため、平坦地での栽培は不可能ですが、2年前より有望品種、播種日や定植日、栽植密度、施肥量の試験に取り組んでいます。

(2) 労働力

労働力は私と妻の2人で、繁忙期には人を雇います。

(3) 農地について

農地は、標高100mから400mまであり、自宅から一番遠い水田は片道約10kmあります。

典型的な中山間地の条件となっており、移動時間の長さは作業効率が悪くなる原因の1つとなっています。

(4) 取得施設及び機械等

取得している主な施設や機械は下記のとおりです。

表1 主な施設及び機械

施設・機械名	性能・規模等	台数
納屋	6 m×18 m	1棟
ビニルハウス	6 m×18 m	1棟
田植機	6条	1台
コンバイン	4条	1台
乾燥機	2,100 kg 2,400 kg	各1台
3 tトラック		1台
畦塗機		1台
軽トラック		1台
3 tダンプ		1台
トラクター	34 p s	1台

3 今後の課題

各作目の課題は次のようになります。

(1) 水稻

現在は、中山間地中心であり、ほ場が分散しています。また、傾斜地が多いことから、畦畔面積が大きく除草作業に大変時間がかかり、作業効率が非常に悪いです。

さらに、中山間地のため作る品種も限られ、「きぬむすめ」は、品質面で向上に限界があります。

そのため、未鎌の高地ほ場において「コシヒカリ」の特別栽培（日野特別栽培米）を実施し、受託作業と重ならないようにし、平地で「きぬむすめ」を栽培することにより収穫時期の分散を図るよう工夫しています。

今後は、「コシヒカリ」は価格の高い日野特別栽培米を増やしたいので、レンゲや堆肥の有機物の確保が必要となります。

(2) 作業受託

現在は、日光地区の他、二部地区にも作業受託をしています。しかし、作業受託の地区が離れている上、所有しているトラクターが34 p sと小さいため、作業効率が非常に悪いです。

(3) ブロッコリー

2年前より有望品種の選定、播種日や定植日などの模索、栽植密度や施肥量の試験に取り組んでいますが、栽培技術の確立には至っていません。

また荒廃地に作付けるため、耕耘作業や圃場の土づくりに苦労しています。

(4) そば

そばは、販路が確立していることから、「地そば」に特化して栽培していますが、荒廃地に作付けるため、耕耘作業に苦労しますし、排水対策や土づくりが不十分のため、そばの収量が少ないのが課題です。

4 課題の解決策

(1) 水稻

現在、ほ場が分散しているため、農業委員会を利用してなるべく分散化を避け、集積できるよう面積拡大を行っていきます。

併せて、所有しているトラクターの大型化（34ps から 60ps へ変更）を実施し、また除草機のアタッチ（ハンマーナイフモア）を新たに導入し、除草作業等の効率化を図ります。

地域内の有機物の有効活用の観点から、新たにマニユアスプレッダーを導入し、町内の [] の馬ふんを活用した堆肥で土づくりを行い、日野特別栽培米を増やしていきます。

(2) 作業受託

作業受託は、地区を限定して大江、日光地区を中心に面積拡大をしていきます。二部地区に関しては、二部地区の大規模農業者や生産組織に任せたいと考えています。

今後は、稲刈りの作業受託を減らして畑作や自作水稲に力を注いでいきます。作業受託は、良い出し手があれば受けたいが、作業効率を考えながら取捨選択していきたいと考えています。

(3) ブロッコリー

普及所や農協と協力して、高冷地での夏どりブロッコリーの技術確立を図りたいと考えています。

荒廃地対策として、2連プラウやマニュアルスプレッダー、ハローを新たに導入して、排水対策や堆肥等を利用した土づくりに力を入れていきます。

(4) そば

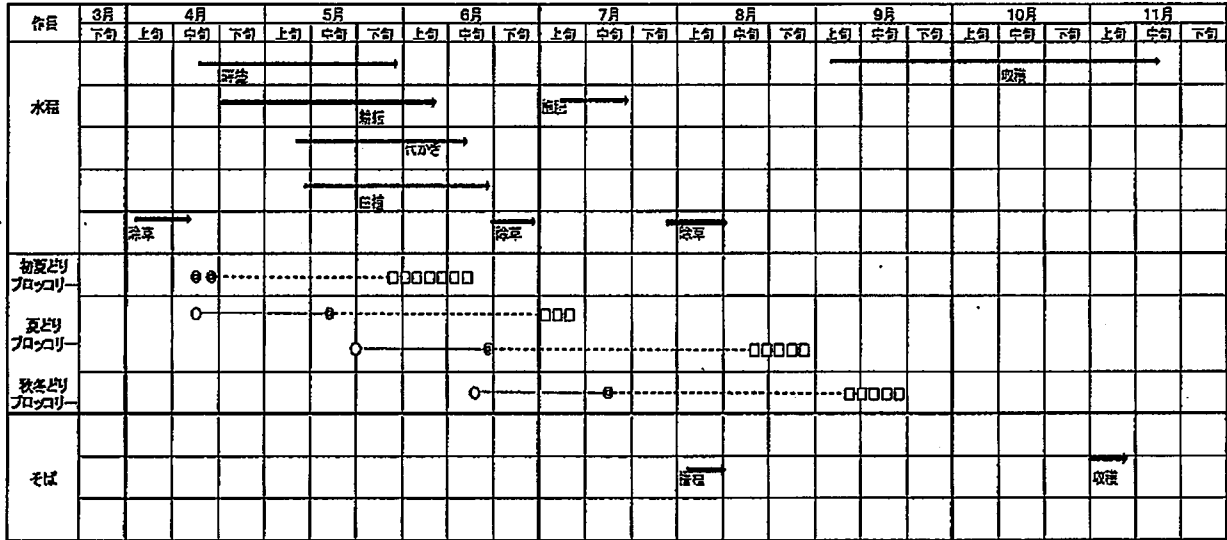
2連プラウやマニュアルスプレッダー、ハローを新たに導入することにより、排水対策や堆肥等を活用した土づくりを行い、そばの品質と収穫量の向上を図ります。

また、ブロッコリーとの輪作を実施し、収穫量維持に努めます。

5 今後の計画等

表2 経営面積の推移

		(単位：水稲・ブロッコリー・そば a、作業受託 a)				
作 目		平成27年 (実績)	平成28年 (見込)	平成29年 (見込)	平成30年 (見込)	平成31年 (見込)
日野特別栽培米 (コシヒカリ)		280	316.7	366	400	530
きぬむすめ		98	165.1	187	200	200
ブロッコリー		30	23	50	50	50
そば		400	400	500	700	700
合計		808	904.8	1,103	1,350	1,480
作業受託	耕耘	262	262	200	200	200
	荒代かき	277	277	200	200	200
	代かき	277	277	200	200	200
	田植	931	890	890	890	890
	畔付け (m)	2683	3,820	4,000	4,000	4,000
	収穫	1,657	1,700	1,700	1,700	1,700
	そば収穫	839	600	600	500	500
	大豆収穫	25	25	25	25	25
	乾燥 (袋数)	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020



○:播種、.....:育苗期間、●:植え付け・定植、—:栽培期間、□:収穫

図1 年間作業計画

表3 収入計画の推移

作 目		平成27年 (実績)	平成28 (見込)	平成29年 (見込)	平成30年 (見込)	平成31年 (見込)
日野特別栽培米 (コシヒカリ)	販売量 (30kg/袋)					
	販売単価 (円)					
	販売収入 (円)					
きぬむすめ	販売量 (30kg/袋)					
	販売単価 (円)					
	販売収入 (円)					
ブロッコリー	販売量 (ケース)					
	販売単価 (円)					
	販売収入 (円)					
そば	販売量 (30kg/袋)					
	販売単価 (円)					
	販売収入 (円)					
A 販売収入計 (円)						
作業 受託	耕耘	面積 (a)				
		料金 (円) /10a				
		受託収入 (円)				
	荒代かき	面積 (a)				
		料金 (円) /10a				
		受託収入 (円)				
	代かき	面積 (a)				
		料金 (円) /10a				
		受託収入 (円)				
	田植	面積 (a)				
		料金 (円) /10a				
		受託収入 (円)				

作業受託	畔付け	長さ (m)	
		料金 (円) /m	
		受託収入 (円)	
	収穫	面積 (a)	
		料金 (円) /10a	
		受託収入 (円)	
	そば収穫	面積 (a)	
		料金 (円) /10a	
		受託収入 (円)	
	大豆収穫	面積 (a)	
		料金 (円) /10a	
		受託収入 (円)	
乾燥	袋数		
	料金 (円) /10a		
	受託収入 (円)		
B 作業受託収入計 (円)			
A+B 収入合計 (円)			

6 事業効果

本プランを実施すると以下の事業効果が見込まれます。

(1) 農地の荒廃化防止

高齢化等で作付けできなくなった水田を引き受けることによって、農地の荒廃を防ぎます。

耕作放棄地化した農地の開墾を行い、計3haの規模拡大(荒廃地の減少)を目標としたい。

農地をきれいに管理することによって、イノシシなどの進入や被害を少なくします。山と農地の境界部分をきれいにし、電柵で囲えばイノシシなどが進入しにくい環境ができます。

(2) 夏ブロッコリーの技術確立

高冷地での夏どりブロッコリーの技術を確立することで、夏季の収入安定に繋がります。

(3) 持続性が高い農業の実践

土づくりの一環として、レンゲ等の地力増進作物の栽培とすき込み、町内の馬ふん等を活用した堆肥の有機物を有効に活用することで、環境に配慮した持続性の高い農業が実践できます。

(4) 所得向上

規模拡大を行うことで所得が向上するとともに、農業の条件が悪い場所で頑張って農業を実践することにより、若い人が私の後について来ることを期待します。

7 今後の取り組みと役割分担

項目	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	実施主体
トラクターの導入	◎○				県、町、本人
ハンマーナイフモアの導入	◎○				県、町、本人
マニユアスプレッダーの導入		◎○			県、町、本人
ハローの導入		◎○			県、町、本人
2連プラウの導入			◎○		県、町、本人
規模拡大	○	○	○	○	町、本人
荒廃地の防止	○	○	○	○	町、本人
夏どりブロッコリー栽培	○	○	○	○	県、本人
レンゲ、堆肥を活用した土づくり	○	○	○	○	県、町、本人

注：◎は県、町の支援が必要なもの、○は本人が実施するもの

8 支援事業の内容 (税別)

項 目	平成28年度	負担区分
トラクター	6876 千円	鳥取県 1/3
ハンマーナイフモア	1600 千円	伯耆町 1/6 本人 1/2
計	8476 千円	

項 目	平成29年度	負担区分
マニュアルスプレダー	1800 千円	鳥取県 1/3
ハロー	1460 千円	伯耆町 1/6 本人 1/2
計	3260 円	

項 目	平成30年度	負担区分
2連プラウ	1400 千円	鳥取県 1/3 伯耆町 1/6 本人 1/2
計	1400 千円	

9 添付資料

(1) 平成28年から31年までの収支計画書

単位：千円

		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
収入	販売収入					
	作業受託					
	小計 (A)					
生産原価	種 苗 費					
	肥 料 費					
	農 薬 費					
	諸 材 料 費					
	動力光熱費					
	農 具 費					
	建物等修繕費					
	雇用労賃					
	共 済 掛 金					
	減価償却費					
	支払地代					
小計 (B)						
販売費 一般管 理費	出荷資材費					
	販売諸費					
	諸税負担金					
	事務研修費					
	支払利息					
小計 (C)						
経営費 (D) = (B) + (C)						
所 得 = (A) - (D)						